

平成 30 年度 「彦根市地域学校協働活動推進事業」

地域学校協働本部事業 地域未来塾事業

実践事例集



彦根市教育委員会

目次

1	彦根市の事業概要と経緯・取組について	1
2	各校の地域学校協働本部事業の取組	
	東中学校 「子どもたちの笑顔のために～できる人が できるときに できることを～」	5
	城東小学校 「伝統を引き継ごう！～城東小学校マーチングバンド活動の充実に向けて～」	6
	佐和山小学校 「地域の方々と共に ～未来を創る 心豊かでたくましい 佐和山っ子の育成を目指して～」	7
	旭森小学校 「地域の人材を生かした旭森教育をつくる」	8
	西中学校 「職員とのコミュニケーションを図り、生徒・学校・地域の関係が見える活動」	9
	城西小学校 「地域と共に、豊かな学びをめざして」	10
	城北小学校 「縦割り班で地域から学び、郷土への愛着心を育てる 『ふるさと探訪オリエンテーリング』	11
	中央中学校 「学校と地域を結び SCHOOL SUPPORT」	12
	平田小学校 「心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり」	13
	金城小学校 「地域のでつくる子ども達の豊かな学習活動」	14
	南中学校 「彦根南サポートオフィス8年目の取組～継続は力なり～」	15
	城南小学校 「地域と共に、子どもを見守る ～登下校の安全確保の取組～」	16
	城陽小学校 「つなげよう 子どもを育む 地域のか ～地域のかで学びを深める～」	17
	亀山小学校 「We Love かめやま」	18
	彦根中学校 「未来に向け、地域と学校(生徒)で創る協働活動・学びの放課後学習会」	19
	河瀬小学校 「地域の方に見守られて育つ『かわせっ子』	20
	高宮小学校 「地域のかを学校に～地域、保護者、学校が一体となって取り組む 学ぶのかの育成～」	21
	鳥居本中学校 「鳥居中学校サポートオフィスの取組」	22
	鳥居本小学校 「『ふるさとに生きる喜びを』地域とつながる体験活動の支援」	23
	稲枝中学校 「地域のかと共に歩む地域協働活動」	24
	稲枝東小学校 「子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動」	25
	稲枝北小学校 「ふるさとに誇りをもち未来をひらく『いなむらっ子』の育成をめざして」	26
	稲枝西小学校 「『ALLはえみ』：地域とともに、学びの充実をめざして」	27
	若葉小学校 「『子どもたちの笑顔のために』チームわかバンク3年目の取組」	28
3	資料 彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会設置要綱	29
	彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員名簿	31
	平成30年度 彦根市地域学校協働本部地域コーディネーター等名簿	32

『彦根市地域学校協働本部事業・地域未来塾事業』

彦根市教育委員会事務局教育部生涯学習課

□事業の概要

- ・幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（地域学校協働活動）を推進し、学校と地域との連携体制の構築を図る。
- ・地域住民が自らの経験や知識を活かす場として、自己実現や生きがいづくり、地域の人材活用・活性化など、地域づくりにつなぐ。
- ・平成29年度から実施する地域未来塾では、中学生を対象に放課後や土曜日等に教員OBや大学生など地域住民の協力による学習支援を実施する。この取組で学力向上を図るとともに、家庭の事情により、家庭学習が困難であったり、学習習慣が身につけていなかったりする中学生への支援にもつなげる。
- ・7中学校区支援地域協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校支援地域協議会に委託して実施する。

□取組の経緯・状況

- ① 平成20年度～平成22年度 3年間の文部科学省委託事業
平成20年度 東、稲枝 市内2中学校区で事業が始まる。
平成21年度 東、西、鳥居本、稲枝 市内4中学校区に拡大実施



- ② 平成23年度から 市の事業（国・県・市 1/3 ずつ負担） 市内全7中学校区で実施



- ③ 平成24年度
- ・市内7中学校区支援地域協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）
 - ・予算 4,734,000円（補助金3,156,000円）
 - ・実行委員会の開催（年3回）
 - 7月31日（火）10:00～11:30 事業説明・実践交流
 - 11月29日（木）14:00～16:00 研修会・実践交流
 - 3月1日（金）14:30～16:30 実践のまとめ・振り返り
 - ・H24年度の取組重点
 - 地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
 - ・学校訪問11月 7中学校区訪問



- ④ 平成25年度
- ・市内7中学校区支援地域協議会
（従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稲枝）
 - ・予算 4,583,000円（補助金3,055,000円）
 - ・実行委員会の開催（年3回）
 - 構成委員：15名＋事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）
 - 8月2日（金）14:00～15:30 事業説明・実践交流
 - 11月28日（木）9:30～11:30 研修会・実践交流
 - 3月4日（火）9:30～11:30 実践報告・振り返り
 - ・H25年度の取組重点（継続）
 - 地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
 - ・学校訪問11月 7中学校区訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



⑤ 平成 26 年度

- ・市内 7 中学校区支援地域協議会
(従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稲枝)
- ・予算 4,613,000 円 (補助金 3,075,000 円)
- ・実行委員会の開催 (年 3 回)
構成委員：15 名＋事務局 (生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)
8 月 4 日(月) 14:00～15:50 事業説明・実践交流
11 月 26 日(水) 9:30～11:40 研修会・実践交流
3 月 2 日(月) 9:30～11:30 実践報告・振り返り
- ・H26 年度の取組重点 (継続)
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- ・学校訪問
11 月 7 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- ・平成 26 年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰
被表彰団体；彦根市学校支援地域本部
12 月 8 日(月) 文部科学省東館 3 階講堂(東京都千代田区霞が関 3-2-2)



⑥ 平成 27 年度

- ・市内 7 中学校区支援地域協議会
(従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稲枝)
- ・予算 4,633,000 円 (補助金 3,075,000 円→2,226,000 円)
- ・実行委員会の開催 (年 3 回)
構成委員：15 名＋事務局 (生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)
8 月 4 日(火) 9:30～11:30 事業説明・実践交流
11 月 30 日(月) 9:30～11:30 研修会 (TKJ 演習)・実践交流
2 月 25 日(木) 14:00～16:00 実践報告・振り返り
- ・H27 年度の取組重点 (継続)
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- ・学校訪問
11 月 7 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



⑦ 平成 28 年度

- ・市内 7 中学校区支援地域協議会 (東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)
- ・学校支援地域本部事業予算 4,632,000 円 (補助金 3,088,000 円)
- ・土曜学習支援事業予算 450,000 円 (補助金 300,000 円)
- ・実行委員会の開催 (年 2 回)
構成委員：15 名＋事務局 (生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)
7 月 12 日(火) 9:30～11:30 事業説明・実践交流
2 月 9 日(木) 9:30～11:30 今年度の実践報告 次年度に向けて
- ・コーディネーター連絡会の開催 12 月 22 日(木) 14:00～16:00
- ・H28 年度の取組重点 (継続)
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
学校支援に学校と地域の連携・協働活動を加える。

・学校訪問

10月～11月 7中学校訪問

学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



⑧ 平成 29 年度

- ・市内 7 中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 4,410,000 円（補助金 2,895,000 円）
- ・地域未来塾事業予算 2,295,000 円（補助金 1,530,000 円）
- ・実行委員会の開催（年 2 回）

構成委員：18 名＋事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）

7 月 14 日（金） 9:30～11:30 事業説明・実践交流

1 月 29 日（月） 14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて

・H29 年度の取組重点

学校と地域の連携・協働活動の推進

（学校と地域の連携強化 地域のネットワークの拡充）

・学校訪問

10月～11月 7中学校と若葉小学校訪問

地域学校協働本部事業と地域未来塾事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

・コーディネーター研修会および連絡会の開催

12 月 22 日（金） 14:00～16:00

講師 湖南市立菩提寺小学校地域コーディネーター兼学校運営協議会理事

安部 正毅 氏 「地域コーディネーターに必要なこと」



⑨ 平成 30 年度

- ・市内 7 中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 4,464,000 円（補助金 2,976,000 円）
- ・地域未来塾事業予算 2,351,000 円（補助金 1,567,000 円）
- ・実行委員会の開催（年 2 回）

構成委員：18 名＋事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）

7 月 13 日（金） 14:30～16:30 事業説明・実践交流

1 月 28 日（月） 14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて

・H30 年度の取組重点

地域学校協働活動と地域未来塾の推進

コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校の連携強化とネットワークの拡充

・教頭研修会

7 月 9 日（月） 10:30～11:30 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動に係る研修

・学校訪問

10月～11月 7中学校と若葉小学校、稲枝西小学校を訪問

地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

・コーディネーター連絡会の開催

12 月 21 日（金） 14:00～16:00 コミュニティ・スクールの実践報告と情報交流

彦根市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■本年度の具体的活動

○実行委員会の開催（年2回）

構成委員：18名 各中学校管理職、CS管理職、地域コーディネーター、彦根市PTA連絡協議会、NPO法人、事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）

7月13日（金）：事業説明・各本部の実践交流とCSからの取組紹介

1月28日（月）：各本部の実践交流・次年度の計画

○7月9日（月）：教頭研修会

市内の教頭を対象としてCSと地域学校協働活動に係る研修を行った。

○10・11月：学校訪問

生涯学習課と学校教育課が連携して実施。両課の担当が共に、7中学校とCSの2小学校を訪問し「地域学校協働本部」と「地域未来塾」の事業とCSの進捗状況把握、今後の取組の確認を行った。

○12月21日（金）：地域コーディネーター連絡会の開催

CSの実施状況を含む今年度の取組と次年度に向けての情報交流、事務局からの指示連絡等を実施。

■本年度の成果

○実践報告の中で「地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。」と答えた学校が、市内小中学校全24校中22校あり、地域ボランティアの活動が定着していると言える。

○実践報告の中で「将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた」と答えた学校が、昨年度は24校中5校だったが、今年度は14校と大幅に増えた。「支援から協働へ」の意識が定着してきたと思われる。今後も、地域と学校が将来構想や目標を共有するために、様々な方策を実行していきたい。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

○実践報告の中で「地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。」と答えた学校が、昨年度は24校中20校あったが、今年度は15校にとどまった。地域学校協働活動の幅が広がるほど、子どもに関する情報共有が課題になると思われるので、実行委員会等の機会を通して、効果的な情報共有のあり方について考えていく必要がある。

○事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化している傾向がある。地域未来塾の学習支援員の確保のためにも、支援のネットワーク化を図り、新たな人材を確保していくことが重要である。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

彦根市では地域コーディネーターが中心となっており、地域学校協働活動推進員は委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

今年度新たに1小学校が学校運営協議会を立ち上げ、彦根市のCSは2校となった。今後は、この2校の取組の成果と課題をもとに他校の学校運営協議会のスムーズな導入につなげたい。

■その他

本市のCSモデル校としてスタートした若葉小学校では、地域学校協働活動を行う各組織のリーダーが学校運営協議会の委員に加わり、学校運営協議会でとりあげた事柄を地域学校協働活動においてスムーズに実践できる体制となっている。

子どもたちの笑顔のために～できる人が できるときに できることを～

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	彦根東中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成20年度 地域コーディネーター数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：57人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			
[地域未来塾] 年間開催日数：34日 地域コーディネーター数：1人（兼務1人） 平均参加人数：20人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等人数：学習支援員13人 ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

[地域学校協働本部]

○読み聞かせ・図書整備活動・・・朝読書の時間に地域のボランティアの方に読み聞かせをしていただいている。読み聞かせは、クラスで学期に1回の計画を立て、学年をA団、B団の2つに分けて1学年から順次実施している。年間を通してどの作品がよいかを学年ごとに創意工夫し、幅広い作品を準備していただいている。また、図書室の新刊図書の登録作業や図書の整備などの支援もしていただいている。地域コーディネーターにより図書ボランティアを募り、11名のボランティアの方が当番制で毎日昼休みに図書室を開き、生徒の貸し出し等の利用を可能にしている。

○ゲストティーチャーによる授業・公演【沖縄民謡の公演】・・・2年生では沖縄学習旅行にむけての事前学習で、地域コーディネーターの仲介により沖縄の八重山民謡を演奏する団体「鳩間ファミリー」と交渉し、学校において民謡と踊りを中心とした公演を開催した。1年生では「仕事人と語ろう」で11の職種の方々を招き職業講話をもつことで将来の進路について考えるよい機会となった。

[地域未来塾]

○水曜放課後学習・・・学習教科は自由で、生徒が学習しようと思う教材を持参して学習しているが、プリントや問題集等は学校が準備して、生徒の希望にあわせて配布や貸出ができるようにしている。

■ 実施に当たっての工夫

[地域学校協働本部]

年度当初の職員会議で、地域コーディネーターから今年度の事業計画を説明していただき、この活動のねらいを全職員が理解した上で取り組んでいる。また教師からの要望をアンケートで聞き取り、活動に生かしている。どの活動も地域コーディネーターを中心に連絡を密にし、急な変更にも素早く対応するようにしている。

[地域未来塾]

「自分が決める」という生徒の自主性を尊重し、成績に関係なく、参加するという意識のある生徒の参加を受け入れている。募集チラシは、生徒へ宛てたものにして、欠席する場合は連絡があれば尊重し、無理に引き留めない等、やらされる学習ではなく、主体的に学習する場をつくるよう心掛けている。学習時間は1時間半確保している。

■ 事業の成果

[地域学校協働本部]

図書整備活動と毎日昼休みに図書室を開館することで、利用する生徒が増加し、読書習慣が身につけてきている。また、ゲストティーチャーとして沖縄の鳩間ファミリーにきていただいたことで、沖縄の文化をより身近に感じる事ができた。

[地域未来塾]

生徒同士で教え合ったり、積極的に学習支援ボランティアに質問したりする姿が多くみられ、それが同室で学習する他の生徒への刺激になるなど、全体の学習意欲を高められた。



【放課後学習会の様子】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

各学年や校内事情を考慮してもらいながらボランティアの方々に来ていただいているが、人数や時間調整が難しくなかなかそろわない日もある。「本部だより」等でその実態を伝え運営が多様化できるようボランティア登録を増やしていく必要がある。また、より効率よく学校とつながっていくために地域と教員との連携を進め、この活動を発展させていきたい。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- () 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

伝統を引き継ごう！ ～城東小学校マーチングバンド 活動の充実に向けて～

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	城東小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成20年度 地域コーディネーター数：1人(兼務0人) ボランティア登録数：約90人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

- ・各パートの練習(毎週金曜日6校時) ・東中学校吹奏楽部との連携
- ・運動会、卒業式歓送などの校内行事への参加
- ・市民運動会、城まつりパレードなどの地域行事への参加

■ 実施に当たっての工夫

- ・今年度もボランティアでトランペット指導をしていただいていた方を社会人講師に迎え、指導体制を整えることができた。また、地域学校協働本部が発行する「地域学校協働本部だより」に、マーチング指導ボランティアの募集を掲載することで指導者の確保に努めている。2名の方に金管楽器や打楽器の指導をしていただき、本校職員との複数指導が実現している。
- ・12月上旬から1月下旬にかけて、6年生から5年生への引き継ぎ期間を設定している。ボランティアの方の指導と子ども同士の交流をうまく融合させ、演奏(演技)技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を守っていこうとする心も大切にしている。
- ・毎年5月下旬頃(中体連の期間中)に東中学校吹奏楽部の演奏による音楽鑑賞会を開催している。後半には、吹奏楽部員にマーチングバンドのパート別指導をお願いしている。

■ 事業の成果

- ・地域学校協働本部との連携と小中連携をうまく重ね合わせることで、指導体制を充実させることができた。
- ・指導ボランティアの方の熱心な指導により、子どもたちの演奏技能が著しく向上した。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- ・地域学校協働本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくとともに、地域コーディネーターとの連携を深め、人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。

■ その他(学校運営協議会との連携等)

マーチング活動に関する児童の感想

練習が苦しい時もあったけれど、いろいろな思い出をつくることで感謝の気持ちでいっぱいです。指導ボランティアの先生に、バジングや音の出し方、曲の演奏の仕方などをたくさん教えていただいたからだと思います。城まつりパレードで自信をもって演奏することができました。

1年間熱心にご指導いただいた指導ボランティアの先生や城東小学校の先生、家族、地域のみなさんなど、たくさんの方に支えられているマーチング活動。運動会や城まつりパレードでは、地域の人に応援していただいたり、たくさんの温かい拍手をいただいたりしてうれしかったです。しっかり5年生に引き継いでいきたいです。



【城まつりパレードでの補助・支援】



【市民運動会で地域に披露】

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- () 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- (○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の方々と共に ～未来を創る 心豊かでたくましい 佐和山っ子の育成を目指して～

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	佐和山小学校	学校運営協議会	：	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成20年度 地域コーディネーター数：2人(兼務0人) ボランティア登録数：160人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []						

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

(1) 朝学習での低学年の英語学習

本校は、英語教育加配やALTの配置もあり、第3学年以上の英語科の学習の充実に取り組んでいる。低学年からの慣れ親しみの重要性を考え、5校時まえの5分間に全校一斉の短時間学習の時間「ハロータイム」を設定した。昨年度までは、低学年でも朝学習の15分間にクラウディア中川さんに協力していただいて、英語活動を展開していた。低学年の子どもたちは、クラウディアさんの明るさと授業の楽しさに引き込まれ、大きな抵抗感なく英語に慣れ親しむことができた。今年度、クラウディアさんの協力を得られなくなり、1学期間を過ごしていたが、保護者の方にボランティアとして1年生の英語活動に協力をお願いすることができ、2学期から1年生の朝学習で英語活動を行うことができるようになった。

(2) 読み聞かせボランティア・図書ボランティア「ポケットさん」の活動

本校では、金曜日の朝学習で、読み聞かせボランティアの方に来ていただいて読み聞かせの時間を設定している。学年の発達段階や子どもの実態、季節に合わせた絵本を毎回2～3冊読んでいただいている。また、図書ボランティア「ポケットさん」は、毎週金曜日に図書室に集まって、その時々に合わせて飾りを作って図書室の環境を整えてくださったり、破れた本の修繕をしてくださったりする。多くのボランティアの方に協力いただいて、子どもたちが本に親しむ環境づくりに取り組むことができた。

(3) 5・6年生の家庭科での活動

調理実習や、ミシンを使った裁縫の時には、地域コーディネーターを通して協力をお願いしている。調理やミシンの学習日時を早めに伝えることが難しい中でも、人数を調整して下さって、各学級2～3人のボランティアの方に来ていただくことができた。ボランティアの方に協力いただいて、子どもたちが調理の仕方やミシンの使い方などを身につけながら、安全に学習をすすめることができた。

■ 実施に当たっての工夫

低学年の英語活動については、来てくださるボランティアの方に、昨年度までの様子を伝えたり、学校が目指す子どもの姿を伝えたりした。また、他学年の英語科の授業を参観していただいて、本校の英語科の目指す姿をより具体的にとらえてもらえるようにした。

5・6年生の家庭科については、日時が決まり次第地域コーディネーターと連絡を取り合ってボランティアの方を募った。また、地域コーディネーターの方への依頼と並行して学年通信でも保護者の方に協力をお願いして、学校と地域との新たなつながりを求めた。



【 5年生 ミシンを使った学習 】

■ 事業の成果

保護者の方の協力が得られたおかげで、1年生に英語活動の時間を設けることができ、英語に慣れ親しむ環境を作ることができた。

家庭科のボランティアについては、これまで参加されていなかった方もボランティアとして参加して下さった。学校教育に興味をもってくださる方が、地域の中や保護者の方の中から出て下さって心強い思いがする。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

低学年での英語活動の実施については、現在1年生のみの実施となっている。できれば2年生でも実施できないか、方策を考える必要性を感じている。

地域の方で協力していただける方が固定してしまわないように、できるだけ多くの方に協力してもらえるよう、協力をお願いする際には、内容をできるだけ具体的に示していく必要がある。

■ その他(学校運営協議会との連携等)

本校には現在学校運営協議会はないが、今後さらに効率よく学校と地域がつながっていくために、地域の方と教員との連携を進めていきたい。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- () 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- () 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- (○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の人材を生かした旭森教育をつくる

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	旭森小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成20年度 地域コーディネーター数：2人（兼務0人） ボランティア登録数：38人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

○図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動していただいている。毎週火曜日の朝の読書タイムに全学級で読み聞かせを実施し、それぞれの学年相応の本や、季節に合わせて選んでいただいた本を読んでもらっている。また、休み時間を利用して「お話し会」を計画し、上下学年別に本の読み聞かせをしていただいているのも、子どもたちが本に親しみやすい機会となっている。

また、火曜日と木曜日に「すまいる」さんが来校して、本の整理や修理、新しい本の登録作業など、いつも子どもたちが気持ちよく本に触れることができるよう環境整備に協力していただいている。

○家庭科の「ミシン」学習支援

毎年地域の方にお手伝いいただいているのが、家庭科でのミシン学習の支援である。指導する教師は一人であることがほとんどのため、子どもたちへの細かな指導にはなかなか手が回らないのが現実である。子どもにとっては糸が絡まってしまった場合の直し方やその後の糸の付け方など、すぐそばで実際にやって見せてもらえることが何よりもわかりやすい。家庭科でミシンを使う場合は、事前に連絡を取り、家庭科の学習時間に合わせて来校いただいている。

○マーチングバンドの演奏指導ボランティア

本校では5・6年生でマーチングバンドを実施している。伝統的な活動であり、子どもたちもこれまで先輩から順に託され、旭森のマーチングバンドを受け継いできている。全教員が指導に当たっているが、楽器演奏という専門的な領域の指導であるため、教員だけでは難しい部分もあり、地域に居住されているボランティアの方に楽器指導のご協力をいただいている。

○ゲストティーチャーとしての協力

各学年で実施する様々なESD教育の一つである地域学習に、ゲストティーチャーとして地域の方々にご協力をいただいている。1年生では、生活科「むかしからのあそび」に地域のお年寄りに来校していただき、昔からの遊びを教えてもらい、いっしょに遊ぶ楽しい時間を作っている。また3年生や6年生では、地域の歴史や文化など様々な疑問に答える講師としてご協力をいただいている。

■ 実施に当たっての工夫

○4月職員会議等の場に、地域コーディネーターと地域学校協働本部事務局の方に来ていただき、事業内容について説明をしていただいた。どんな協力ができるのか、また人材を探す場合の窓口はどこであるかなど、各教員が本事業を知ることができた。

○ゲストティーチャーや講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや1時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教員と打合せをして実施している。

■ 事業の成果

○図書館教育部が、一人年間50冊を目標にした読書推進の取組を始めて4年目になるが、図書室が本に親しみやすい環境になっているおかげで、達成する児童が増えている。

○本事業の内容を教員が理解することで、必要とする人材の確保のため、どこに相談したらよいかなど、基本的な情報を共有することができた。



【 6年生 歴史学習 】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・学校が必要とする支援ボランティアのニーズは広がる一方だが、協力いただける方がなかなか増えていかないのが現状である。学校が支援してほしい内容をいろいろな広報を通じて発信していき、継続して協力を呼びかけたい。

・図書ボランティアについては、地域のみなさんを中心に運営が進められるように、地域人材の募集を続けていきたい。

・学生チューターの協力を得るため、大学との連携を模索していきたい。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

() 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

職員とのコミュニケーションを図り、生徒・学校・地域の関係が見える活動

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	西中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成21年度 地域コーディネーター数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：30人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		
[地域未来塾] 年間開催日数：62日 地域コーディネーター数：1人（兼務1人） 平均参加人数：20人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（) ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（) ・学習支援員等人数：学習支援員30人 協働活動支援員0人 協働活動サポーター0人 ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

- ・楽習ひろばとして、学習学力補充教室の開催（地域未来塾）
- ・支援を要する生徒への学習支援活動
- ・環境整備活動の補助
- ・体育大会の準備、後始末や資源回収など学校行事への補助

■ 実施に当たっての工夫

- ・コーディネーターと教頭や担当との綿密な打ち合わせ
- ・前年度の内容の確認と今年度の事業内容との照らし合わせと変更点の確認
- ・事前打ち合わせの徹底
- ・活動後の集約ととりまとめ

■ 事業の成果

- ・子どもたちの活動の推進と安全確保及び活動支援が充実した。
- ・樹木の伐採や草刈りなど、人手がほしい活動ができた。
- ・地域未来塾を開催することにより、一人ひとりに見合った学習支援ができた。
- ・学習面で生徒の弱みの部分が明らかになり、その弱みを補充することができた。



【 資源回収の様子 】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- ・昨年度地域コーディネーターが中心となって生徒の登下校の安全を確保するためのマニュアルを作成したが、学校と地域の危機への対応やその連携など、様々な課題が含まれている。今年度は、昨年度作成したマニュアルの見直し、検証を行ったが、今後は活用方法等を考えていく。
- ・地域未来塾では、大学生が大学の授業の変更などで、今まで来られた時間に来られなくなることがあり、学習支援員が不足することがあった。学習支援員の安定的確保が課題である。
- ・コーディネーターと打ち合わせをした後の変更については、連絡が滞ってしまったり、意思が伝わらなかつたりと対応が遅れることがあった。学校とコーディネーターや本部内のコーディネーター同士でさらなる連携が必要である。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

- ・現在、学校運営協議会の立ち上げに向けて校内を整備中のため、具体的な連携については今後検討する余地があると思われる。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- (○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域と共に、豊かな学びをめざして

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城西小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成21年度 地域コーディネーター数：2人(兼務0人) ボランティア登録数：60人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) <input type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

(1) 世代間交流の充実

1、2年生を中心に地域の高齢者が会員の「子どもらと楽しもう会」との交流に取り組んだ。1年生には交通安全の意識を高めるための「キューピー人形」を渡していただき、1、2年生合同の「七夕集会」では、ゲストティーチャーとして伝統的な行事と伝承遊びについて、指導や講話いただいた。

(2) 郷土学習の充実

総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。

- ・3年生：昔ながらの町並みを再現した「夢京橋キャッスルロード商店街」を題材に、見学や商店街連盟の方から関わる人々の思いを聞くことで、当地に愛着を深め、その歴史やよさを積極的に調べることができた。
- ・4年生：「彦根城」を題材に、彦根城の特徴を調べ、ボランティアガイドのみなさんからよりよいガイドの仕方についてアドバイスを聞き、実際に観光客をガイドしたり、城下町である校区のよさを追究したりできた。
- ・5年生：琵琶湖の環境学習に取り組み、環境問題に詳しい方にゲストティーチャーとして来ていただき学びを深めた。
- ・6年生：地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動を通して学びを深めた。

(3) 学びを豊かにする学習支援の充実

算数科の基礎・基本の定着を目的に「バックアップ教室(対象：4～6年)」を各学期に7回程度、夏季休業中に6回開催した。地域の教員OB2名や中学生が中心になって指導にあたっていただいた。

また、今年度から5年生の家庭科の学習では、地域コーディネーターのコーディネートによりミシンの学習支援に地域の方々へのべ10名来ていただき、ミシン系のつけ方や絡まった糸の処理の仕方等を分かりやすく教えていただいた。

(4) 学校周辺環境整備

台風で木々の葉や枝が集積したフェンス周辺の清掃を地域の方10名にしていただいた。



【バックアップ教室】

■ 実施に当たっての工夫

地域コーディネーターにコーディネートしていただきやすいように、担当者が積極的に学校の情報を提供したり、打ち合わせ時期を調整したりした。

■ 事業の成果

地域の方の生の声を聞くことで地域への愛情や誇りに思う気持ちを育むことができた。また、学習支援では、学習意欲の高まりのみならず、地域の方とのつながりを深める機会にもなった。



【ミシン学習の支援】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

中学校ブロック内の地域コーディネーターや学校と地域を結ぶコーディネート担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、本年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換する。

■ その他(学校運営協議会との連携等)

「地域・学校協働だより」を発行することにより学校運営協議会発足に向け、制度の概略等の情報発信に努めた。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- () 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- () 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

縦割り班で地域から学び、郷土への愛着心を育てる「ふるさと探訪オリエンテーリング」

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城北小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成21年度 地域コーディネーター数：1人(兼務0人) ボランティア登録数：40人 ■学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) ■地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

① 地域との連携・協働した特徴的な活動「ふるさと探訪オリエンテーリング」

8:50~9:00 出発式

9:00~ ウォークラリー(各班並んで4分ごとに出発)

(船着き場→大洞弁財天→井伊神社→清涼寺→佐和山城跡)

12:10~ 終わりの式

児童会の縦割りグループ毎に、地図を参考にして訪ね、6年児童や地域・施設の方から説明を受けて学習する。その交通見守りや安全のサポートを行う。

② 学習支援(地域未来塾)

毎月第2、4水曜日の放課後を活用して、児童の学習補助と個別支援をする時間を「ベースアップタイム」と名付け、設定した。

■ 実施に当たっての工夫

事前に職員で下見を行い、危険箇所の点検やチェックポイントの確認を行った。その内容を、地域学校協働本部の地域コーディネーターに伝えた。当日は、地域コーディネーターから、児童の活動内容と注意事項をスタート前に説明していただき、教師とボランティアと連携して安全確保ができるようにした。

■ 事業の成果

①については、20名以上の方々が参加していただき、子どもたちの安全への目配りが大変よくできた。ポイント毎での児童の説明にボランティアの方も頷いたりメモをとったり、子どもに寄り添っていただいた。また、休憩場所では子どもと会話したり一緒に景色を眺めたりする中で自然と交流する姿が見られた。

学校から、見学場所までの安全配慮が十分行えた。ボランティアさんの人数がしっかり確保できているため、子どもたちへの目配りや気配りが十分に行き届き、活動そのものがスムーズにいく大きな要因となった。

②については、地域の元教員をボランティアとして活用したことで、円滑に運営することができ、学力の保障につながったと考えている。



【 説明をする6年生 】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

グループ数も多く、時間差をつけて活動を行うため、活動時間や待ち時間等に大きな幅が生じてしまう。ガイド場所での班の回転がゆっくりしていたために、さらに時間の幅ができてしまった。職員の中にも時間の意識が足りなかった部分もあるが、ガイドポイントを絞る、終わりの時間をはっきりさせることで、次の活動にスムーズに移行できるような配慮が必要であった。

また、佐和山山頂までの移動は、地域ボランティアの方にとっても負担が大きく、天候によっては最大限に安全面の配慮を必要とすることから、今後の実施については検討を要すると考えている。



【 参加者一同による出発式 】

■ その他(学校運営協議会との連携等)

地域コーディネーターを中心として、参加可能なボランティアを募集したり、日程調整を行ったりするに当たり、事前に学校から計画書を提示し、内容面について説明する機会を設けた。これにより、取組の意図や、安全面の配慮について十分に検討を重ねた上で人員の配置等を決めることができた。例年行っている伝統的かつ文化的行事として地域に根ざしていることもあり、学校からの発信ではなく、地域コーディネーターが進んで学校に働きかけて話し合いの機会をもつことができた。地域に開かれた双方向な教育課程として位置づけられていると言える。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

(○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

学校と地域を結ぶ SCHOOL SUPPORT

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	中央中学校	学校運営協議会　： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成22年度　地域コーディネーター数：1人（兼務0人）　ボランティア登録数：13人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） <input type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			
[地域未来塾] 年間開催日数：18日　地域コーディネーター数：1人（兼務0人）　平均参加人数：10人 ・学習形態　： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方　： <input type="checkbox"/> 放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等人数　： 学習支援員15人　協働活動支援員0人　協働活動サポーター0人 ・学習支援員等の属性　： <input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

- (1) 今年度から、PTA行事である資源回収と学校清掃作業にも協力を依頼し、数台のトラックで伐採した樹木や草木の搬出を手伝っていただいた。
- (2) 昨年度から特別支援学級の授業で、中庭での野菜作りを行っており、一度途絶えた地元の「大藪かぶら」の再興にも取り組みながら、様々な野菜作りの補助を行っていただいている。
- (3) 校内の環境整備事業として、生徒とともに ①かまどベンチの製作 ②ゴーヤカーテンの設置と撤去 ③美術部の作品用額縁の制作と修繕 ④校舎内の掲示板の作成 に取り組んでいただいた。
- (4) 「中央中博覧会」として、授業や部活動、行事などでの作品を、地域の公民館に1週間展示する取組の中で、その設営や当番、後片付けで支援していただいている。
- (5) 地域未来塾では、学習補助による基礎学力の定着と対話によるコミュニケーション能力・社会性の向上を目的に、授業教材・ワーク、プリントを使った自主学習をベースにわからない箇所の指導をしていただいている。

■ 実施に当たっての工夫

- 生徒が夏祭りや文化祭などの地域活動へボランティア参加することにより、連携を積極的に行い、地域とのつながりを深めようとしている。
- 地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、新たにポスターを制作し、校内掲示や通信掲載を行った。
- 地域未来塾の学習支援員は、学校教員と生徒というタテの関係ではなく、「ナナメの関係」で接することを大切にしている。支援員は名札にニックネームや趣味などを記入し、生徒から親近感を持ってもらえるような工夫をしている。

■ 事業の成果

- 毎年行っている活動については、支援の方々も要領をよく理解していただいております、スムーズな活動ができるようになってきている。その中でも、3年ほど実施しているゴーヤカーテンは、毎回前年度の反省をうけて改良され、年を経るごとに育つようになってきている。
- コーディネーターの他にも、総合的な学習の時間の茶道体験、美術科の作陶体験、家庭科の浴衣着付け体験、調理実習、保健体育科の性教育講座、朝読書の読み聞かせなどを実施し、地域の人材を授業の中で活用している。
- 地域未来塾では、生徒の自主性を大切にしながら個人の力と学習スピードに合わせた支援を進めているため、生徒は時間をかけて学習への理解を深めることができている。
- 地域未来塾での個別指導は、生徒が「できた」を味わえる機会となっており、自主的な家庭学習にもつながっている。



【完成したかまどベンチ】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- 地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、地域の公民館便りや学校通信などによる広報活動を行い、本事業の認知度を高め、放課後学習や図書室の常時開館など支援の輪を広げ、活性化を図っていく。
- 本事業に対する教職員の意識を向上させ、授業や学校行事、生徒活動への計画的な導入を図っていく。
- 今年度、地域未来塾は定員に満たない状況であるので、機をとらえて広報活動をしていく。

■ その他

活動の様子は本校ホームページに掲載 <https://www.fureai-cloud.jp/chuo-jh-hikone/>

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- () 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- () 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	平田小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成23年度 地域コーディネーター数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：38人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） <input type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

本事業も8年目を迎え、年間の活動について総会時に話し合い、活動内容を決めてきた。毎週水曜日の朝の読み聞かせ、環境整備活動、社会科や総合的な学習の時間での地域学習の講師や全校遠足の引率等、地域人材の活用が定着している。コーディネーターをはじめ、ボランティアの皆さんが、学校のことを熱心に考えて活動してくださっている状況である。

子どもたちは、地域のボランティアさんとの声かけや見守りを素直に受けとめ、安心感とともに感謝の気持ちをもっている。学校を代表して、高学年の児童には感謝集会で直接お礼を伝えたり、暑中見舞い、年賀状に感謝のメッセージを書いたりする活動を行っている。

<特徴的な活動内容>

① 朝の読み聞かせ

今年度も昨年度に引き続き読み聞かせボランティアを合計8名で活動していただいている。本校は12学級あるため、読書活動支援員、教員3名が水曜日の読書の時間にボランティアさんと一緒に読み聞かせを行っている。毎週、いろいろなお話を聞くことができ、子どもたちは何を讀んでもらえるのか楽しみにしており、読み聞かせ中は興味深く聞いている。



【 ふれあい遠足 出発式 】

② 全校遠足の引率

11月2日（金）にふれあい遠足を実施した。たてわり班の各班に1～2名ずつボランティアさんについていただくとともに、ペア学年の子ども同士で並んで彦根城まで歩き、途中の交差点には、立哨していただいている。今年度も17名の方にご協力いただき、彦根城で一緒にお昼を食べ、楽しく安全に彦根城まで往復することができた。

③ 教材園・環境整備

2年生の担任より、「生活科の学習として夏野菜づくりを行いたい」という提案から、事前に畑の除草作業をしていただいたり、野菜に応じた大きさの畝作り、土づくりをしていただいたりした。1学期の終わりには、たくさん実がなったので子どもたちは実がなる喜び、収穫する喜びなど体験を通した学習ができた。また順番に自宅に持ち帰るなど、家庭にも学習の成果を伝えることができた。

学校の環境整備として、周辺の除草作業や、正面玄関の美化、また駐輪場の屋根のペンキ塗り、そして現在では、図工室の机の張替えなどを行ってもらった。図工室の机は、長年の使用により、表面が凹凸になり絵や字が書けない状態になっていることから、表面を張替えていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

5月の総会で、年間の計画を立て、学期はじめには活動の予定を書いた案内を、児童を介して配布している。今年度も毎月第2水曜日を活動日として位置づけた。連絡等はできるだけ児童に直接手渡してもらうという形をとっている。

また活動にあたり、コーディネーターさんと活動の打ち合わせを行ない、事前に人数の割り振りや必要な道具や材料の確認を行った。事前準備をしっかりと行うことで、当日の活動がスムーズに進めることができた。

■ 事業の成果

月1回の活動日には、10名ほどのボランティアさんが参加してくださっている。今年度は、活動時間を2時間から2時間半に伸ばしていただき、学校環境が少しでも良くなるように仕事を見つけて環境整備に努めてくださっている。1学期は、学校周りの環境整備をメインに行った。2学期に入り各担任にも校内の教室等で修理が必要な場所や、あったら便利な教具などの意見を求めることで、教室内の学習環境の整備に取り組み始められた。

2年生では、トマト、ピーマン、なす、サツマイモと栽培する野菜の種類が多く、さらに豊作であったことで、何度も子どもたちが家庭へ持ち帰ることができ、学校支援ボランティアとの活動を保護者に知ってもらう機会にもなった。さらに、子どもたちは、ボランティアさんへあてて野菜作りの感想を入れた手紙を書くことで、生活科の学習のまとめとして取り組むことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

今年度もボランティアさんの人数確保が課題である。学校支援の活動が、ボランティアさんにとってのやりがいにつながるよう、支援していただける活動について意見交流し、次回に向けて活動の確認をする必要がある。今年は学校支援ボランティアさんの名前や写真を学校の玄関に掲示し子どもや保護者、来校者にも活動についてやボランティアさんを紹介することができた。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- () 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- () 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の力でつくる子ども達の豊かな学習活動

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	金城小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成23年度 地域コーディネーター数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：117人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） <input type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

(1) 登下校の安全パトロールと挨拶

- ・金城見廻り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち安全を見守りながら、挨拶の声かけをしてくださっている。

(2) 体験活動支援

- ・特別支援学級の大藪かぶらの栽培、3年生の昔のあそびとくらし、5年の米作り等の活動にゲストティーチャーを頼んでいる。田んぼの管理をいただいた方は、おにぎりパーティに招待している。

(3) 読み聞かせ・影絵

- ・朝読書の時に読み聞かせをしていただいたり、全校集会で影絵を行っていたりしている。

(4) 学習環境の整備

- ・校庭の樹木の剪定や除草作業、校地内の溝の土砂上げなどを実施していただいている。



【 田植え 】

■ 実施に当たっての工夫

- 毎月、第3月曜日に定例会を開催し、コーディネーターと活動内容の計画や確認を行っている。
- ボランティアの方々へは、6年生の児童が暑中見舞いのはがきを出している。また、音楽会に招待したり、単位PTA大会時に5、6年生児童の感謝のメッセージカードを書き、それをPTAが掲示して感謝の気持ちを伝えるなどしている。
- PTAから単P大会やもちつき大会などのPTA主催行事に、ボランティアを招待している。



【 昔の遊び体験 】

■ 事業の成果

- 学習や生活がしやすい学校環境の整備ができた。
- 子どもの様子を適宜伝えていただくことで、学校だけでは気づかない実態を把握することができた。
- ゲストティーチャーの豊かな経験や地域教材等を活かし、充実した学習活動を行うことができた。
- 地域の様々な人々によって守り育てられていることを、子どもが感じ取ることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- 本事業の取組を、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分に周知していくこと。
- 子どもたちが、ボランティアの方々と共に活動したり気軽に話したりする機会をより充実させること。
- ボランティアの高齢化に伴い、ボランティア活動を終える方が出てきたこと。また、ボランティアを増やすための効果的な働きかけがなかなかできず、世代交代がうまく進みそうにない実態があること。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- () 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

彦根南サポートオフィス8年目の取組 ～継続は力なり～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	南中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要			
[地域学校協働本部] 開始年度：平成23年度 地域コーディネーター数：1人(兼務1人) ボランティア登録数：30人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本区内地域未来塾) <input type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他[グリーンカーテンづくり]			
[地域未来塾] 年間開催日数：27日 地域コーディネーター数：1人(兼務1人) 平均参加人数：10人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他() ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他() ・学習支援員等人数：学習支援員8人 協働活動支援員0人 協働活動サポーター0人 ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

- 地域学校協働本部事業では、グリーンカーテンづくり(6月)・図書室の本の整理(毎週木曜日)・環境整備作業(11・12月)を地域や保護者の方と協力して活動している。
- 地域未来塾事業では、夏季休業中の補充学習・質問教室の指導者として、教員だけでなく地域の大学生の協力を得て実施している。また、9月～2月に3年生を対象とした放課後学習会「水曜ゼミ」を、地域の大学生・元教員、保護者が学習支援員として指導にあっている。

■ 実施に当たっての工夫

- 地域と学校が連携した活動を推進するために、地域や保護者のボランティア募集チラシを配布したり回覧したりして人材確保を図った。また、校区の小・中学校の活動を紹介したボランティア便りを作成し、地域への啓発を行った。
- 校区の小・中学校の地域コーディネーターと地域連携担当教員が定期的に会議を開催して活動報告・情報交換、運営について話し合った。また、コーディネーターが校区の小学校と連携して、水曜ゼミの学習支援員の確保にあたった。



【グリーンカーテンづくり】

■ 事業の成果

- ボランティア便りや募集チラシ等の広報活動の成果として、毎年行っている事業が地域や保護者の方に定着してきていて、環境整備作業は中学生の地域貢献活動と合わせて実施しているため、多くの親子での参加があった。
- コーディネーターが校区の小学校の活動取材する中で、ボランティアの方とつながる機会ができ、小学校より結びつきが少ない中学校にも地域の方の協力をお願いすることができた。
- 水曜ゼミは、家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、年齢の近い大学生の学習支援員に積極的に質問するなど、意欲的に取り組んでいた。



【水曜ゼミ】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- 地域学校協働本部事業は、学区の小学校では浸透しているようになってきたが、中学校としてはまだまだで、活動を充実させるためにはボランティアの人材確保が難しい状況である。今後は地域の団体や校区にある大学と連携・協働して事業を推進していきたい。
- 地域未来塾事業では、参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日もあり、安定した人材確保が必要である。また、3年生以外の学年にも放課後学習会の開催を望む意見もあるため、今後は全学年において実施できるように、学習支援員の確保と開催日時の調整が必要である。

■ その他(学校運営協議会との連携等)

- 地域学校協働活動の様子を広報するために学校ホームページに掲載している。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- () 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- () 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域と共に、子どもを見守る ～登下校の安全確保の取組～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城南小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成23年度 地域コーディネーター数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：85人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

本校では、主に読書ボランティア、子供見守り、学習支援を中心に地域から支援を受けて学習活動の充実を図っている。その中から、下校時・一人歩きする子どもの安全確保について取組を紹介する。

彦根市から出される不審者情報は著しく増加しており、子どもに対する脅威が増加している。また、集団で下校していても、自宅に帰るまでには最終的に一人で歩くことになる子どもも多く、安全確保が難しい。そこで、青少年育成協議会を中心に、地域住民が主体となってパトロール隊を組織し、子どもが集団下校から離れて一人歩きとなる区域の巡回パトロールを行っていただいている。パトロール隊は、巡回時に全方位カメラにより周辺情報を映像記録し、有事の際には警察に情報提供することになっている。このような仕組みを地域と協力して作ることで、犯罪を未然防止し、子どもの安全確保を図るよう取り組んだ。

■ 実施に当たっての工夫

- (1) 子供会を中心に、子どもが下校時に一人歩きになる区間を把握する。
- (2) 上記の区間を中心に、地域の当番が小学生の下校時刻に合わせて、自転車でパトロールする。
- (3) 自転車パトロールの当事者は、全方位カメラを装着したヘルメットを順送りし着用する。カメラに挿入するマイクロSDカードは公民館金庫で保管する。
- (4) 事件・事故が発生したときには、警察の要請に基づきSDカードの情報を提供する。画像の再生・閲覧は警察が捜査として使用するときのみとする。



【パトロール隊スタートイベント】

■ 事業の成果

- ・当番制でパトロールを実施することにより、子どもの下校時の安全確保につながっている。
- ・パトロール時には腕章を付けることや、広報誌や新聞等で取組を報道するなど、子どもを見守っていることをアピールすることで、犯罪の抑止効果につながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- ・現在、一部の自治会のみでの取組となっているが、今後は校区全体に取組を広げ、子どもの安全を確保できるようにしたい。
- ・本取り組みを開始して間もないころ、「カメラを付けた怪しい人が自転車でうろろしている。」という通報を受けたことがあった。その人物は腕に腕章らしきものも付けていたということから、自転車パトロールをしていただいていた方が不審者に間違えられたものと思われる。地域住民への周知を広げ、理解をいただくとともに協力を得られるように呼びかけていきたい。
- ・個人情報保護の観点から、カメラで撮影することに抵抗を感じておられる方もおられると思われる。画像の再生・閲覧はせず事件が起こったときに警察に情報提供するのみとすることになっているが、SDカードの保管方法など、プライバシー保護にも十分配慮をしていきたい。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

- ・地域学校協働活動を進めるにあたって、青少年育成協議会をはじめ、学校・自治会・子供会・教育委員会・警察・子どもセンター等と合同会議を持ち、連携をとりながら事業を進めている。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- () 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- (○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城陽小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成23年度 地域コーディネーター数：1人(兼務0人) ボランティア登録数：75人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書環境整備) <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

○第3学年 総合的な学習の時間

「めざせ!城陽はかせ」～今につながる昔の暮らし～

子どもたちが昔の生活の様子について知っていることは、祖父母等から聞く、めんこやビー玉などの遊びについてがほとんどであり、本単元の目標「昔の道具やそれらを使っていた頃の暮らしの様子について調べ、人々の生活の移り変わりについて考える」を達成することは難しい。指導計画の作成にあたっては、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うことについても配慮事項となっていることから、3年生児童の祖父母を中心に、地域のことをよくご存知の方にゲストティーチャーとしてご来校いただき、各々の課題解決とつなげることができた。教室やオープンスペース等に、テーマごとにコーナーを設定し、ゲストティーチャーに質問をしたり、話を聞いたりして学習を進めた。今の暮らしの便利さだけに焦点をあてるのではなく、時代の背景やその変化と人々の暮らしは密接にかかわりあってきたことを改めて見つめ直したり、昔の生活の様子に思いを馳せながらその時代その時代の人々のかかわりやそれぞれの果たす役割、立場などについて深く考えたりする有意義な機会となった。

また、城陽子どもまつりでは、地域の方を招いて自分たちの学習の成果を発表し、さらに学びを深めることができた。



【地域の方からお話を聞く様子】

○全学年 読書活動

地域の方に図書ボランティアをお願いし、図書室の本の整理や、新刊図書が入ったときの本の登録、年中行事に合わせた図書室のデコレーションなどをお願いしている。また、毎週火曜日8:30～8:40、学級毎に読み聞かせをお願いしている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。さらに、春と秋にお話し会を行い、ひこね市児童図書研究グループの方に読み聞かせをしていただいた。様々な工夫でお話の世界に浸ることができ、想像力を掻き立て豊かな心の育成につながった。



【ひこね市児童図書研究グループによるお話し会】

○全学年 夏休み算数科補充学習

毎年夏休みには、希望者を対象に算数科の補充学習を行っている。今年度は4日間実施した。この時に地域の方にゲストティーチャーとして採点や、個別指導に当たっていただき、効果的に学習できるようにしている。また、近くの県立大学の学生にもボランティアでゲストティーチャーをお願いし補充学習の成果を高めている。

■ 実施に当たっての工夫

効果的な学習が行えるように、事前に綿密な打ち合わせを行った。また、事後の学習の様子を知らせ、全体を通しての学習のまとめを発表する場として「城陽子どもまつり」を行い、地域の方を招待して成果を見ていただく機会を設けている。また、「学校だより」を通じて、保護者や地域の方へ活動について発信をしている。

■ 事業の成果

本やインターネット等で調べるよりも、身近な方から直接お話いただくことで、子どもたちは実感を伴った学習をすることができた。また、地域の方々が子どもの指導のために何度も学校を訪問していただくことで、学校とのつながりをより深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

できるだけ毎年継続して活動が進められるように、ボランティアの確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

(○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	亀山小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成23年度 地域コーディネーター数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：30人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

(1) 栽培活動支援

毎年サツマイモの苗植え・収穫をボランティアに支援していただいている。植え方を丁寧に指導いただいたおかげで、今年も豊作となった。また、学校花壇の花の育苗も手伝っていただいた。育った苗を近隣の施設や地域の独居老人に届ける活動は、本校の伝統となっている。配達は子ども達が行うが、配達先の多い町はその町のボランティアにお手伝いをお願いした。

(2) 家庭科学習への支援

家庭科のミシン学習や調理実習に、ボランティアをお願いした。子ども一人一人への支援が充実し、満足のいく活動となっている。

(3) 学力向上への支援

夏休みに、全校児童対象に学力補充教室（算数・国語教室）を開催している。今年度は、地域の教員OB9名に入っただき、個別指導に当たっていただいた。

(4) ふるさと学習への支援

3年の地域学習や2年の生活科などでも、地域のことをボランティアの方々から詳しくお話をお聞きし、ふるさとへの思いを深めることができている。年度末には、亀山こ発表会を学校で開催し、お世話になったボランティアの方々を招き、1年間のふるさと学習の成果を披露している。



【 栽培活動 サツマイモ苗植え 】

■ 実施に当たっての工夫

○地域コーディネーターは、長年安全ボランティアとして尽力いただいた方をお願いし、学校の事情や子どもの実態について理解していただいている。前コーディネーターとの連携を密にとり、栽培活動時などは、お二人で学校に出向いてくださっている。

○担当教職員とコーディネーターが打合せを綿密に行っている。どんな人が必要か、どんな内容で支援してもらおうかなどについてコーディネーターと十分話し合い、交渉に当たってもらえるようにしている。

○毎週金曜日の放課後に定期的にコーディネーターに來校していただき、学校との連絡がスムーズに行えるようにしている。

○校内掲示や学校だよりにより、ボランティアの支援を受けている様子を子どもや保護者、地域に発信している。



【 地域学習 歴史探訪 】

■ 事業の成果

○コーディネーターに学校のニーズにあった人材を発掘していただき、教育活動の充実につながった。

○小規模校であるため、教職員の数も限られているが、ボランティアのおかげで安全に学習を実施することができている。

○ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかかわりを深めることができている。

○支援の必要な行事や学習内容の時期になると、コーディネーターから声を掛け、助言をしてくださっている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていただいていることが、担任の負担軽減につながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを目指したいところであるが、難しい面もある。

○さまざまな活動場面でボランティアの支援がほしいところであるが、限られた補助金の中、多くの方に来ていただくことは難しいのが現状である。

○ボランティアとの事前打合せは担任を中心に行っているが、話の視点が少しずれたり、内容が難しかったりすることがある。指導してもらう内容についての綿密な打合せが必要である。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

(○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

未来に向け、地域と学校(生徒)で創る協働活動・学びの放課後学習会

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成23年度 地域コーディネーター数：4人(兼務2人) ボランティア登録数：143人 ■学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) <input type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [] [地域未来塾] 年間開催日数：40日 地域コーディネーター数：2人(兼務2人) 平均参加人数：15人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他() ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他() ・学習支援員等人数：学習支援員5人 協働活動支援員 協働活動サポーター ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

- (1) 緑のカーテンプロジェクト(取組5年目)
 - ・多くの生徒に呼びかけ、自分たちのつくった緑のカーテンであるという意識づけになった。
 - ・5月上旬：3年生の学年集会で取組説明。5月中旬：支柱、ネット張り、プランターに移植、生徒会環境委員会やボランティア部による水やり。10月中旬：ゴーヤの撤去作業
- (2) 学校行事などへの参加協力
 - ・地域コーディネーターに依頼し、各種団体に声をかけていただき、ボランティアを募集する。
 - ・長距離遠足の交通指導、合唱コンクールなどの学校行事における駐車場整理、校地内の環境整備(葉刈り、除草作業等)
- (3) 地域貢献活動への参加協力
 - ・生徒が地域の一員として地域活動に参加する中で、感謝の心を持ったり、地域の良さを知る機会となった。
 - ・年度初めに自治会長さんに年間行事やボランティア活動で中学生が参加できるものを報告する。依頼された活動を生徒に知らせ、ボランティアを募り、各種団体に報告する。参加後に報告書を学校へ提出し、参加率の高い生徒は表彰する。
- (4) ゲストティーチャーによる特別講義や支援員の協力
 - ・助産師による性教育(1年、3年)、職場体験前のマナー講座(2年)、放課後の学習支援(全学年)、スマホ講座(全学年)
- (5) 放課後学習会
 - ・3年生では、11月から毎週月曜日と金曜日を基本にして、放課後学習会を実施している。生徒が持ってくる学習教材のわからない問題や、数学と英語の基礎定着プリントに対する支援を、学習支援員と教員が数名程度で行っている。
 - ・1、2年生では、テスト前の期間を利用して、放課後の学習支援を行っている。生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員が数名程度で行っている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・学期に一回の地域コーディネーター担当会議を開き、活動の反省と今後の予定について協議してきた。
- ・地域コーディネーターと連携して、自治会や各種団体に協力要請をしていただき、活動の交流を図ることができた。
- ・学区の小学校とも連携をとりながら、進めることができた。
- ・学習支援員の確保については、近隣大学の学生や地域の大学生に機会あるごとに呼びかけている。

■ 事業の成果

- ・緑のカーテンプロジェクトは取り組み5年目になり、生徒や地域の中で定着してきた。作業を通じて、自分たちの学校環境は、自分たちでよくしていく意識づけになった。
- ・長距離遠足では、水分補給、交通指導、同一歩行等、多くのボランティアの方に参加していただいたことにより、生徒たちも地域に守られていることを実感できた。
- ・地域未来塾では、家庭学習に取り組めない生徒が、年齢の近い大学生の学習支援員に積極的に質問するなど、短時間ではあるが学習にまじめに取り組んでいた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- ・従来からの事業内容はほぼ定着してきているが、さらに工夫を加えた取組により、地域と学校の関係づくりを活発にしていきたい。
- ・地域未来塾では、学習支援員の数が不足しており、人材確保が難しい現状にある。

■ その他(学校運営協議会との連携等)

- ・活動状況は、本校HPにて掲載している。<https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/>

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- () 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- (○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。



【緑のカーテン設置作業】



【地域貢献啓発のぼり旗】

地域の方に見守られて育つ「かわせっ子」

彦根市	活動名： 彦根中学校区地域学校協働本部	河瀬小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成23年度 地域コーディネーター数：2人(兼務0人) ボランティア登録数：65人 ■学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) ■地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他 []		

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

(1) 「店ではたらく人」

3年生では、社会科の学習で、近くにあるビバシティに毎年見学に行っている。今年は、学校で「食育体験ツアー」の説明を聞いた後、徒歩でビバシティに出かけた。到着後2チームに分かれて、買い物ゲームと店舗見学をした。この活動の中で、ボランティアの方に、行き帰りの安全指導とお店の中での見守りをお願いした。自動車の通行量が多い道路を徒歩で移動することから、交差点ごとに安全に横断ができるように立哨をしてくださり、安心して移動をすることができた。また、店舗内では、子どもたちが落ち着いて見学できるように見守っていただき、たくさんのことを発見したり学んだりすることができた。

(2) 「夏休み学習教室」「冬休み学習教室」

4～6年生の国語科、算数科においてつまずきのある児童を対象に、「夏休み学習教室」を夏休み中に開催した。また、理科の楽しさを実感することや算数の難しい課題に挑戦することを目的に「冬休み学習教室」を冬休みに開催した。指導は、本校職員他、学習支援員として退職教員や地域の大学生をお願いをした。子どもたちの学びたいという意欲をしっかり受け止め、学力の向上を図ることができた。

(3) 「町探検」

2年生の生活科、3年生の社会科で町探検に出かけている。東西南北、それぞれの地域を訪ねて行き、地域の方にその施設の役割や歴史を聞く機会をもった。実際にその地域に住み、よりよい地域になるように協力し、努力されている方々のお話を聞くことは、児童の心に残る活動になっている。

■ 実施に当たっての工夫

- 年に3回、中学校ブロックでコーディネーターの方との話し合いをもち、PDCAサイクルで活動を進めることができています。年度当初の話し合いでは、昨年度の実践を元に今年度の計画を話し合った。年度途中の話し合いでは、他校の実践を聞く機会があり、活動の参考となっている。
- 年度当初には、学区全体にボランティアの募集の呼びかけをしている。本年度は新たに、戦争体験のお話を申し出てくださいる方やエプロン製作の支援を申し出てくださいる方があった。また、グループとして、厚生保護女性会のみなさんが図書の整理や読み聞かせ、安全指導に来てくださった。呼びかけをしたことから、ボランティアとして登録してくださる方が広がっている。

■ 事業の成果

- 人と関わるとてもよい機会になっている。地域の方とのつながりが深まり、普段の生活の中でも、自然にあいさつを交わすなどあたたかい関わりができています。
- 地域の方とふれあうことで、地域の良さや歴史を知るだけでなく、自分たちの地域を自慢や誇りに思う気持ちが育っている。
- あたたかく見守っていただくことで、子どもたちが安心して活動に取り組み、感謝の気持ちが育ってきている。



【 ビバシティでの買い物体験 】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- 年度当初に、コーディネーターの方を紹介し、その役割について本校職員が理解をする場を設けることが大切である。
- できるだけ早めに、お願いしたい内容と日時をコーディネーターの方に伝えることと、いろんな方に連絡を取っていただけ、よりよい「連携・協働」に向けての準備ができる。
- PDCAサイクルを大切に、よりよい活動になるよう、双方向での意見の交流を大切にしていきたい。

■ その他(学校運営協議会との連携等)

- 本校では学校運営協議会は立ち上げていないが、地域コーディネーターをはじめとする地域の方たちに、その都度、学校行事の案内を届けることによって、参観に来ていただき、子どもの様子を見ていただいている。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- (○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の力を学校に～地域、保護者、学校が一体となって取り組む学ぶ力の育成

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	高宮小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成23年度 地域コーディネーター数：2人(兼務0人) ボランティア登録数：80人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

【伝統的踊り「カボチャ踊り」】

主に、3、4年生を対象にした事業である。学校へ回数出向いていただいたり、週末や夏季休業中に地域で行われている練習に子どもたちが自主的に参加したりして、保存会の方や地域の皆さんと一緒に楽しんでいる。また、教えていただいた踊りを運動会で保存会の皆さんとともに披露し、全校、保護者、地域への発表の場とする。

【サツマイモの植え付けと収穫】

学校敷地内にある学級園は、面積が狭いうえ、土の質も野菜を育てるのにふさわしいとは言いがたい。そこで、2年生の生活科「サツマイモを育てよう」の学習に合わせて、畑の土の改良から、植え付け、収穫と子どもたちの学びを支えていただいている。近年、家庭で野菜を育てた経験の少ない児童は、畝づくりから収穫の仕方など、【名人と一緒にサツマイモの苗うえ】どれも熱心に学ぶことができた。

【ブロッコリー畑の見学】

3年生は社会科の学習で見学に出かけたスーパーで、並んでいる野菜はいろいろな地域から運ばれていることに興味を抱いた。そこで、地元の高宮地域にも野菜を出荷しているところがあることを知り、地元の農家に苗の植え付けの方法から成長の様子を聞いたり、収穫の様子を見せていただいたりした。



【大きく育ったブロッコリーに感動】

■ 実施に当たっての工夫

- ・事前の打ち合わせの中で指導者の願いはもちろん、支援者の思いを十分話し、「地域のよさを学ばせたい」という学習のねらいを明確にすることで、活動がいっそう充実したものになるようにした。
- ・家族以外の地域の方とのふれあいを通して、自分たちが多くの人に支えられ、見守られ、大切にされているということに気づけるようにする。
- ・地域の方に子どもたちの生き生きとした活動の様子や喜びの感想を伝えることで、より積極的に伝統を受け継いでいくことができるようにする。

■ 事業の成果

【カボチャ踊り】

保護者や地域には『カボチャ踊り』は、はじめて…。』という方も数多いが、地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする子どもたちの姿をほほえましいものと受け取り、好評価である。

【ブロッコリー畑の見学】

高宮地域にも野菜を作っている方が多いことを知り、スーパーで買う野菜が、自分たちの地域で育てられていることを知り、改めて地域がいろいろなところとつながっていることに気がついた。

【サツマイモの植え付けと収穫】

大きなサツマイモが収穫でき、支援者へ感謝の気持ちをもつことできた。また、時折、学校を訪れて畑の世話をしてくださっている姿を見かけ、見えないところでいろいろな苦勞をしてくださっているからこそ、大きな芋が収穫できることを痛感したようである。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

子どもたちや職員も、直接支援いただいた方の顔はわかるが、コーディネーターや他学年の活動支援者は知らない。年度当初の顔合わせ会、年度終わりに感謝の気持ちを伝える場が設定できるといい。また、保護者(PTA)、職員が入れ替わっていくことで、本事業の継続的な取組が危惧される。そこで、今年度は、支援者バンクの確立をして、活動が継続できるようにした。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- (○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

鳥居本中学校サポートオフィスの取組

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成22年度 地域コーディネーター数：1人(兼務1人) ボランティア登録数：200人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		
[地域未来塾] 年間開催日数：8日 地域コーディネーター数：1人(兼務1人) 平均参加人数：5人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他() ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他() ・学習支援員等人数：学習支援員4人 ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教員 <input type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

(1) 男鬼森林学習

学区有林(財産区共有山林)の森林整備作業について学習し、植林や間伐作業などを実際に体験することで、森林の保全と有効な活用との調和について理解する。

☆1年・・・植樹 2年・・・伐採 3年・・・活用する



(2) 地域との連携

☆宿場祭り・・・今年は台風の影響で中止。

☆学区運動会・・・吹奏楽部の入場行進、開会式での演奏 ・中学生が役員として活動

☆学区文化祭・・・3年生卒業研究の発表、吹奏楽の演奏、3年生合唱の発表、木材加工品の販売、**【男鬼森林学習：伐採】**
さんあかグッズの販売

(3) さんあかレンジャー

あいさつ運動で小学校に行き活躍している。10月に、1年生より新メンバーを選出し、認証式を実施した。

(4) 基礎的な学力の補充(地域未来塾)

長期休業中に出される課題(ワーク)の基礎的な問題やわからない問題を中心に、個別に教えている

■ 実施に当たっての工夫

○鳥居本地区域教育協議会を年3回持ち、1学期に地域支援の趣旨・目的を小中で共有し、今年度の活動・役割について確認をした。2学期は中間総括を行い、後半の活動に生かすようにしている。3学期は年度末総括を行い、次年度につないでいく。

■ 事業の成果

○地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生(中学校)がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらおうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。さんあかレンジャーの活躍や地区運動会、宿場まつり、学区文化祭での活動に特に表れている。

○地域学校協働本部事業に、鳥居本学区自治連合会や老社会等が積極的に関わってくださり、地域と中学生を結ぶ活動が多く実践できている。特に、地域の高齢者の方に手紙を書き、体育祭への招待もかねた取り組みや、3学期には、1年生のお年寄り交流活動を行う予定である。

○地域未来塾は、わかりやすく教えてもらっていると生徒に好評である。また、学習を通して、地域の方と中学生が交流できる。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。また、男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。

○地域未来塾の学習支援をしてくださる地域の方が、限定されている。支援をしてくださる方が今以上に集まらない。

○地域未来塾を平日の放課後等に実施できないかを検討中である。

■ その他(学校運営協議会との連携等)

○1小学校・1中学校で、鳥居本学園として小中一貫教育を行っている。地域協働活動、クリーン活動・資源回収など小中で連携して行っている取組がある。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

() 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

(○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

「ふるさとに生きる喜びを」地域とつながる体験活動の支援

彦根市	活動名: 鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本小学校 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度: 平成21年度 地域コーディネーター数: 2人(兼務0人) ボランティア登録数: 100人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

○1年 生活科・6年総合 「生き物探検」

5月に1・6年児童が仏生寺町の矢倉川に入ってマスやカニなどをつかむ体験を行っている。青少年育成協議会や仏生寺町老壮クラブの方々が、周辺の除草、川へ降りる階段整備など安全な学習の場づくりや、当日の児童の活動支援の他、網や児童がつかんだ魚の運搬まで配慮して下さる。多年度に渡り地域の協力を得て実施している学習であり、児童が鳥居本の豊かな自然や人々の温かな思いに触れる機会として定着している。今年度、地域の講師から笹尾地域の歴史や豊かな自然を聞く学習を一体化して取り入れた。



【生き物探検】

○3年 総合 「鳥居本お仕事名人」

10月・11月、3年生児童が、鳥居本地域でもの作りをしておられる商店・工場に見学に行く活動を実施した。江戸時代から醤油を製造・販売されている商店や、消火栓の製造・販売が日本一を誇る工場長さんから話を伺う活動を通して、本地域とのつながりを大切にこの道一筋でがんばっておられる方々の生き方に触れ、その素晴らしさに気づき、地域に誇りをもつことができた。

○4年 総合 「矢倉川調査隊」

6月、鳥居本在住の彦根市環境保全員さん3名の協力を得て、学校近くの矢倉川で水生生物による水質調査を行った。きれいな川に棲む水生生物が多く見付き、身近な川に対する見方を新たにしている児童もいた。学校の理科室では彦根港湾の水と矢倉川の水、水道水の水質をパックテストで確かめ、矢倉川の水質は、水道水に近く、きれいであることが分かり、児童はより地域の川を大切にしたいとの思いを強くした。



【稲刈り】

○5年 総合 「米づくり」

小野町在住の方々と保護者の支援を得て、5年生は米づくりを行った。児童は地域の産業である稲作を体験するとともに、そのお米を頂くことで農業の大切さを考える機会となった。また、自然の恵みや地域の方々の尽力に感謝する気持ちをもつことができた。

■ 実施に当たっての工夫

活動の事前にコーディネーターと本事業担当・担任が綿密に打合せを行っている。地域の方の思いを大切にしながら、学習のねらいを明確に伝えることが大切である。

■ 事業の成果

地域の人々の協力や支援を受け、全学年で地域の人・もの・自然に触れる体験活動を実施することができた。活動の中で、児童は地域の人々の温かさ、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを深めることができた。コーディネーターが広く保護者に参加を呼びかけることで様々な活動への支援やその参加数が徐々に増えている。毎年米作りを支援いただいている地域の人々からは、「毎年楽しみにしています。いつも子どもから元気をもらい、感謝しています」と話された。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

地域の豊かな教育力を学校教育に生かせるよう、今後も地域との連携を密にして教材開発を行っていきたい。また、児童から地域への発信を充実し、より児童の主体的な学びを推進したい。小中一貫型の鳥居本学園としては、今後本事業をどのように小中が連携して運営するか新たな課題も見えている。

■ その他(学校運営協議会との連携等)

鳥居本学園ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/toriiimoto-hikone/> 小中学校の様子をお知らせしています。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- (○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の人と共に歩む地域協働活動

彦根市	活動名：稲枝中学校区支援地域協議会	稲枝中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
<p>地域学校協働活動概要</p> <p>[地域学校協働本部] 開始年度：平成20年度 地域コーディネーター数：2人（兼務1人） ボランティア登録数：9人</p> <p><input type="checkbox"/>学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） <input type="checkbox"/>地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/>図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/>学校行事支援 <input type="checkbox"/>子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/>部活動支援 </p> <p> <input checked="" type="checkbox"/>学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/>学びによるまちづくり <input type="checkbox"/>地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） </p> <p> <input checked="" type="checkbox"/>地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/>ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/>郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/>その他 [特別支援学級への学習支援] </p> <p>[地域未来塾] 年間開催日数：30日 地域コーディネーター数：1人（兼務1人） 平均参加人数：9人</p> <p> ・学習形態：<input checked="" type="checkbox"/>個別の学力補充 <input type="checkbox"/>教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/>その他（ ） </p> <p> ・教室の持ち方：<input checked="" type="checkbox"/>放課後実施 <input type="checkbox"/>土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/>長期休業日実施 <input type="checkbox"/>その他（ ） </p> <p> ・学習支援員等人数：学習支援員8人 協働活動支援員0人 協働活動サポーター0人 </p> <p> ・学習支援員等の属性：<input type="checkbox"/>企業人 <input type="checkbox"/>行政職員 <input checked="" type="checkbox"/>元教員 <input checked="" type="checkbox"/>大学生 <input checked="" type="checkbox"/>地域住民 <input type="checkbox"/>NPO等関係者 <input type="checkbox"/>その他 </p>		

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

- (1) 読書活動支援
4人の読み聞かせボランティアの方に隔週火曜日の読書タイムの時間に学年単位で読み聞かせをしていただいている。
- (2) 特別支援学級への学習支援
特別支援学級における作業学習の一環として、スクール農園の経営を行っている。学習がスムーズに進むように特別支援学級の担任と地域コーディネーター兼ボランティアが日常的に打ち合わせを行い、計画的に活動を行っている。
- (3) 学校行事への支援
今年度は体育祭が平日開催となり、勤務等の都合もあり保護者の支援が難しくなった。そこで、地域コーディネーターに探してもらい、学区内から看護師さんと退職された養護教諭の方に支援していただくことになった。猛暑の昨今では、生徒の健康で安全な活動に手厚く対応していただき、大変よかった。
- (4) 地域の諸団体と共に行う地域貢献活動
○稲枝駅前環境美化活動 ○夏のイルミネーション（稲枝ルミネ）の準備・飾り付け・後始末
○サマーフェスタ（地域の祭り）や地域の文化祭における吹奏楽部の演奏
- (5) 地域未来塾では、地域在住の方や学区内にある聖泉大学の学生、教育実習生など8名の協力を得て進められた。質問教室として、おもに基礎学力の充実を目的に進められた。



【稲枝駅前環境美化活動】

■ 実施に当たっての工夫

- 毎学期、読み聞かせボランティアさんと地域コーディネーターと学校の担当者と交流会を行い、スケジュールの調整をしたり、生徒の様子、本の内容などを話し合っている。
- 野菜の栽培では、どの作業にも適期があり、学習計画を綿密に立てなければならない。また、天候にも左右されるため早めに担任との連絡調整が大切である。
- 地域の行事や学校の行事は、あらかじめ期日が決まっているので、ボランティアの依頼や各種団体との連絡調整は早めに行っている。

■ 事業の成果

- 朝読書（読み聞かせ）をすることにより、落ち着いて一日のスタートを切ることができる。
- 生徒が農園での活動を楽しんだり、種まき、収穫、販売を通して新しい体験や発見をしたりして、生活に必要な知識やスキルを身につけてきていく。
- 地域貢献活動に参加することによって、地域のアイデンティティを感じたり、自分たちも地域づくりに参画しているんだという意識が育ってきている。滋賀県青少年育成県民大会で表彰された。
- 今年度は、地域の方で退職をされた社会人の方が母校の生徒の学力の向上を願い、地域未来塾の学習支援者として指導をしていただいた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- 課題としては、ボランティアの固定化、高齢化を改善しなければならない。また、地域未来塾事業では、年間を通してシステム化しておくことでスムーズに事業が進む。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

稲枝中学校では、学校関係者評価委員会において学校の取組について評価、点検してもらっているが、その委員会において各代表が稲枝中学校の未来志向において、どのような連携・協働ができるのかを模索し、計画実行していくことにより、よりよい稲枝中学校がイメージできる。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- () 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- () 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名：稲枝中学校区支援地域協議会	稲枝東小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成20年度 地域コーディネーター数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：28人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

本校では、5年生の総合的な学習の時間の一つとして毎年、「米作り」に取り組んでいる。地域のボランティアの方々との協力を得て、田植えや稲刈りなどの体験活動を実施している。

春の田植えでは、裸足で田んぼに入り、土に足を取られながらも意欲的に苗を植える姿が見られた。秋の稲刈りでは、各自が鎌で刈り取った稲を、ボランティアの方や教師に満足そうに見せる姿が多く見られた。「いつも食べているお米が、こんなにも多くの労力や工夫によって作られていることを知りました。これからはもっと食べ物を大切にしていきたいです。」と日記に綴るなど、働く人々の思いや食べ物のありがたさを改めて考え直すことができる貴重な機会となった。

また、収穫した米を精米して、2月に実施する「ひびきあい活動」で味わったり、全校に取り組みを紹介してから給食として全校児童でいただいたりするなど、みんなで収穫を喜び、分け合うことができた。



【 田植えの様子 】

■ 実施に当たっての工夫

貴重な体験をさせていただいている「米作り」だが、ボランティアの方々への支援や配慮によって支えられているところが大きい。また、活動の実施にあたっては、ボランティアの方からアイデアをいただくことも多く、日々のコミュニケーションを豊かにし、学校とボランティアの方の間の風通しをよくしておくことが、活動を活性化させていく上で重要であると感じている。



【 稲刈りの様子 】

■ 事業の成果

○ボランティアとしてご活躍いただいている方が、新たな方を紹介して下さることもあり、学校支援への熱い思いがボランティアの方々の中で引き継がれている。

○従来の学校にありがちだった「垣根」が低くなっており、地域の方々が気軽に学校へ立ち寄りやすくなっている。

○年間を通して関わって下さる活動もあり、子どもたちの気になる言動については直ぐさま学校へ情報を伝えて下さるので、児童理解や指導においても役立っている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

学習支援・栽培・環境美化・交通安全・生徒指導等でお世話になっている本事業であるが、さらなる活動の広がりが期待される。学校と地域が知恵を出し合い、新たな活動を模索していきたい。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

ボランティアの方々との交流の様子を、日々の学校生活のお知らせとともにホームページで紹介している。

[\(https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/\)](https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/)

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

() 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

(○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

ふるさとに誇りをもち未来をひらく「いなむらっ子」の育成をめざして

彦根市	活動名：稲枝中学校区支援地域協議会	稲枝北小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成20年度 地域コーディネーター数：1人(兼務0人) ボランティア登録数：61人 ■学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) <input type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

- ①お話タイム(隔週木曜日 8:15~8:30 各教室で読み聞かせ)…お話ボランティア7名に来ていただき、季節や教科学習に合わせて様々なジャンルの本を読み聞かせていただいたり、学期に1回ずつ交流会を開いたりしている。
- ②環境整備活動…まちづくり協議会の方々による池の清掃、運動場周辺の除草、プール清掃などを行っていただいている。毎年、各町からたくさんのボランティアの方にお手伝いいただいている。
- ③各教科の学習活動…焼き芋(1、2年)、町たんけん(2年)、米作り・昔の暮らし(3年)、曾根沼干拓・真珠の養殖など(4年)、びわ湖について・ヨシ刈り(5年)、地域学習(6年)、書き初め・百人一首(5、6年)など毎年来ていただいている方や新しい分野について来ていただく方など様々おられ、子どもの深い学びにつながっている。
- ④スクールガード…保護者も含め、たくさんの方に見守り活動をしていただいている。
- ⑤稲村かるたオリエンテーリング…今年29回目。今回は、出路方面へ行き、ポイントでは、ボランティアの方が資料を準備して児童に説明をしてくださった。また、次年度のコースのポイントについて、夏休みにボランティアの方に協力していただき、教師の研修を実施した。
- ⑥運動会の江州音頭…江州音頭を行うに当たって、櫓を組み、子ども、保護者、地域の方が一同に会して、賑やかに踊ることができた。本校の学区の出身の方に来ていただいて、音頭を取ってもらった。
- ⑦ふれあいタイム…祖父母や地域のお年寄りを招き、体育館で全校児童と一緒に給食を食べたり、その後の学習では、昔の遊びをしたりかるた取りなどをしたりして楽しく過ごした。
- ⑧クラブ活動…ふれあいクラブでは、地域のお年寄りとグランドゴルフをしたり、近くのデイスービスへ慰問したりして、地域との交流を深めている。
- ⑨放課後学力補充…月(下学年)水(上学年)の対象児童に、学習支援員(元小学校教員、各日1名)の方に15:00~16:00の1時間学力補充をしていただいている。



【 池の清掃 】



【 運動会の江州音頭 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアバンクを作成し、毎年更新して、たくさんのボランティアの方と連絡を取れるようにしている。
- ・地域コーディネーターやまちづくり協議会の役員の方と密に連絡を取り合い、協力していただきたいボランティアを探してもらうようにしている。
- ・三世代の家庭も多いので、児童の祖父母を通して、様々な学習活動に協力してもらえよう、つながりを大切にしている。

■ 事業の成果

- ・児童とボランティアとのつながりが深くなり、町で出会ったときにも挨拶をすることができるようになった。
- ・地域学習などでは、自分一人ではできない体験をさせてもらったり、地域について詳しく説明してもらったりして、深い学びにつながった。
- ・児童数の減少に伴い、なかなか行き届かない環境整備を支援していただくことで、気持ちのよい環境で学習させていただいており、感謝の気持ちも育ってきている。
- ・学力補充では、苦手な部分をしっかり指導してもらうことができ、児童もわかるうれしさを感じながら取り組んでいる。学習支援員も、指導後に担任と密に連絡を取り、次の指導に生かすことができています。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- ・高齢化により、活動の継続が難しくなることが予想される。引き継いでいただける方や新しい方を増やしていく必要がある。
- ・郷土学習については、限られた時数の中で効率的に行っていく必要がある。特に、ゲストティーチャーとして来ていただく場合は、話していただく時間や内容についてしっかり打合せをするようにしたい。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- (○) 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

「ALL はえみ」：地域とともに、学びの充実をめざして

彦根市	活動名：稲枝中学校区支援地域協議会	稲枝西小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成20年度 地域コーディネーター数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：41人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）地域と共に花づくり

全校で花の世話をし、校庭には四季折々の花が美しく咲いている。種まき・苗植え・除草・土作りなどは、6年生とフラワー委員会の子供たちが行っているが、手間のかかるポットへの植え替えは地域の皆さんと一緒に活動している。花の世話を通して「がんばる心」「優しい心」「豊かな心」の育成を学校・地域が共に目指している。

地域の皆さんが大勢来てくださる入学式と卒業式は、一人一鉢栽培のサクラソウで飾る。また、運動会には夏休みに親子で育てたプランターの花を並べて、「花の輪運動会」を行っている。

（2）クラブ活動

幅広く専門的な活動体験を目指し、5年前から地域の方に指導に入っていた。今年度は茶道クラブで継続実施となった。子供たちは、日常の学習内容・指導者とは異なる中で、意欲的に活動している。



【 茶道クラブ 】

■ 実施に当たっての工夫

- 支援者は、お手伝いではなく、教職員と共に子供たちを育てるパートナーという存在である。活動前から、子供につけたい力や学習のねらい、お互いの役割分担等についての話をする時間を可能な範囲で設けている。
- 支援して下さるボランティアの方やゲストティーチャーに感謝の気持ちをもつことを大切にしたいと考えている。掲示板に顔写真や活動内容を掲示している。

■ 事業の成果

- 子供たちから支援者に声をかけたり、支援者から子供たちへ話しかけたり、相互の交流が見られた。そんな中で、子供を通してのつながりだけでなく、地域住民と学校もつながる中で、新たな支援者が増えて、活動の幅が広がり、多様な活動が実施できた。
- 今年度は、支援者から「子供たちと過ごした時間は楽しく有意義であり、元気をもらった」という声をたくさん頂いた。子供たちが書いた手紙を「宝物です」と大事にしてくださる姿も嬉しかった。
- 読書ボランティアさんから、高学年では長編を聞く力もついてくるので、毎回担当を代わって読むのではなく、連続で入って長編やシリーズものなどを読みたいというご意見を頂いた。年度後半は、従来と形を変えての実践を行い、子供たちも次の読み取りの時間を楽しみにしていた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- 年度当初、年間指導計画を基に、支援して頂きたい活動について事前に伝える機会を設ける。見通しをもった支援を計画的に実施できるようにする。
- 多くの方々にお世話になっているが、短く単発の交流が多い。じっくりふれあう機会を増やし、お世話になった方に気持ちを伝える場をもちたい。ボランティアの方にも「やりがい」「楽しみ」のある活動となればと願う

■ その他（学校運営協議会との連携等）

- 年間3回の会議をもつ。1学期は、学校から学校経営方針の説明を行い、交流を行った。2学期は中間学校評価を元に、子供たちの姿や学校のあり方についてのご意見を頂いた。学校の様子をよりご理解頂けるように、音楽会やはえみ祭り等への誘いかけを行った。3学期は今年度のまとめと来年度に向けての課題を話し合う予定である。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- （○）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
- （○）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
- （○）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

「子どもたちの笑顔のために」 チームわかバンク3年目の取組

彦根市	活動名：若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働活動概要 [地域学校協働本部] 開始年度：平成28年度 地域コーディネーター数：1人 ボランティア登録数：60人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 [畑の活動]		

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

(1) 命の学習としての畑の活動から「収穫感謝祭」への取組

昨年度から実施している夏の「収穫感謝祭」。今年度は子どもたちが育てたい夏野菜を学年ごとに決め、水やりや草取り等育てる過程を大切にしながら、命の尊さ、収穫の喜びを実感できるように配慮した。収穫感謝祭の内容については、学校とわかバンクの皆さんで、昨年度の課題であった子どもの参加の仕方やPTAとの連携、酷暑の中で安全に行うための方策等について話し合った。

7月26日に子どもたちが畑で夏野菜を収穫し、翌27日に第2回収穫感謝祭を実施した。

当日、学校教員による「野菜〇×クイズ」や「若葉の森ビンゴゲーム」で楽しい時間を過ごした。その間にわかバンクの皆さんや教職員、PTAの方々で夏野菜カレーを作り、食事タイムでは和やかな雰囲気の中でカレーを食べることができた。

食の大切さや収穫の喜びを感じるとともに、みんなで集い子どもたちの笑顔を真ん中に、保護者、地域、そして教職員が「輪」を作ることができた。



【収穫感謝祭「カレーおいしいね！」】

(2) 平和堂見学

3年生では、近くの店に出かけ見学を通して自分の生活と販売の仕事とのかかわりを考える社会科学習があり、10月5日、校区内の平和堂見学を行った。

店内で班ごとに分かれて調査活動を行う際に、ややもすると周りのお客さん等に迷惑をかけてしまうことがあるが、わかバンクの皆さんに店内各ポイントにて見守っていただくことで、安心してグループで調査活動を行うことができた。

その後、わかバンクの皆さんを招待して学びをまとめた発表会を行った。見学に同行していただいた方だけでなく、普段、登下校や畑の活動等でもお世話になっている方もお越しいただき、子どもたちは相手意識・目的意識をもって、張り切って発表することができた。

2年生の町探検も、昨年同様、意義ある活動になった。



【グループでの平和堂見学】

■ 実施に当たっての工夫

○「収穫感謝祭」では、地域コーディネーターが昨年度末より地域の方へ、コミュニティ・スクールの活動や収穫感謝祭の実施について話をさせていただいてご理解を得ることができ、地域からの賛助金をもとに収穫感謝祭をより充実させることができた。酷暑の時期でもあることから、暑さ対策として散水ミストの効果的な活用や冷房の効いた室内での活動もよかった。事後に運営協議会にて振り返りを行い、無理なくいつまでも続く活動をしていきたい思いを共有することができた。

○「平和堂見学」では、あらかじめの打ち合わせにおいて、グループが困っているときや社会のマナーを乱しているときに声をかけていただくようお願いし、グループの様子を温かく、根気強く見守っていただいた。おかげで、子どもたちが自分たちで見学学習を深めたという達成感をもつことができた。

■ 事業の成果

○「子どもたちの笑顔のために」という思いで学校へ協力してくださる地域の方が増え、組織も安定してきた。

○「学習支援」「図書支援」「見守り支援」「広報支援」の4つのリーダーが、責任をもって進めてくださるので、どの活動も価値ある成果を感じることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○学校支援メンバーの一定の方に負担がかからないよう、話し合いを進めていきたい。今年度PTAとの連携が進んだので、より深まっていくように働きかけていく。

○1、2年生を対象に、学習とスポーツの支援として「土曜講座」体験会を月に2回スタートした。生活習慣を整えることや地域とのつながりを大切にするためにも、体験会から「土曜支援」として定着させていきたい。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

○4回実施している運営協議会の中で、活動計画や振り返りができるよう、またPTAとの連携しながら進められるようにしていく。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

() 地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会設置要綱

(名称)

第1条 この委員会は、彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 実行委員会は、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（以下「地域学校協働活動」という。）を推進することを目的として設置する。

(任務)

第3条 実行委員会は、市域での概ね次の各号の事項について調査・研究・協議を行うものとする。

- (1) 事業全体の企画・運営・調査研究に関すること
- (2) 地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、学校支援ボランティアの養成及び連絡調整に関すること
- (3) 事業成果の報告に関すること
- (4) 事業の評価に関すること
- (5) その他必要と認められること

(組織)

第4条 実行委員会の委員は、次に掲げる者のうちから25名以内で組織する。

- 2 彦根市教育委員会教育長が委嘱する行政関係者、学校教育関係者、PTA関係者、社会教育関係者（地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、学校運営協議会関係者）等をもって構成する。

(役員)

第5条 実行委員会に委員長1名、副委員長1名を置く。

- 2 委員長は、実行委員会を代表して会務を総括する。副委員長は、委員長を補佐する。

(任期)

第6条 委員の任期は、就任した日から当該年度の3月31日までとする。ただし、欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第7条 実行委員会の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 会議は、委員長が必要と認めた者に参加を依頼することができる。
- 3 必要に応じて教育委員会内関係職員による連絡会議を開くことができる。

(部会)

第8条 実行委員会に、必要に応じて専門部会を設けることができる。

- 2 専門部会の委員は、実行委員会の委員のほか委員長が必要と認めた者をもって充て、委員長が指名する。
- 3 専門部会に関する必要な事項は、委員長が定める。

(庶務)

第9条 実行委員会の庶務は、彦根市教育委員会事務局教育部生涯学習課において処理する。

(雑則)

第10条 この要綱に定めるものの他に、実行委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

H30 彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員

	氏 名	役 職
1	富永美砂穂	東中学校区地域コーディネーター
2	藤井 和麿	西中学校区地域コーディネーター
3	有馬 裕次	中央中学校区地域コーディネーター
4	木ノ内江以子	南中学校区地域コーディネーター
5	雨森 一夫	彦根中学校区地域コーディネーター
6	森 正治	鳥居本中学校区地域コーディネーター
7	北川 浩志	稲枝中学校区地域コーディネーター
8	小林 朱実	若葉小学校地域コーディネーター
9	柴田 雅美	NPO法人 Links 代表
10	米田 紀代子	彦根市PTA連絡協議会事務局長
11	幸 美砂子	東中学校教頭
12	西堀 和彦	西中学校教頭
13	藤堂 寛	中央中学校長
14	塚本 幹雄	南中学校教頭
15	大橋 聖一	彦根中学校教頭
16	久保田 篤	鳥居本中学校教頭
17	山田 孝	稲枝中学校校長
18	清水 良信	若葉小学校校長
19	都築 養子	生涯学習課長
20	清水 貴博	学校教育課長
21	森 貞以子	生涯学習課主幹
22	宮崎 良雄	学校教育課副主幹

平成30年度 彦根市地域学校協働本部地域コーディネーター等名簿

No.	氏名	所属・役職等	本部の住所と主な勤務地
1	富永 美砂穂	東中学校区コーディネーター	彦根市芹川町443 彦根市立東中学校内
2	馬場 敬子	東中学校区コーディネーター	彦根市立城東小学校内
3	安河内 美沙子	東中学校区コーディネーター	彦根市立佐和山小学校内
4	橋野 賀代	東中学校区コーディネーター	彦根市立佐和山小学校内
5	小堀 真知子	東中学校区コーディネーター	彦根市立旭森小学校内
6	岡崎 みか	東中学校区コーディネーター	彦根市立旭森小学校内
7	藤井 和磨	西中学校区コーディネーター	彦根市金亀町8-1 彦根市立西中学校内
8	大倉 敦子	西中学校区コーディネーター	彦根市立城西小学校内
9	尾田 英昭	西中学校区コーディネーター	彦根市立城西小学校内
10	小山 茂隆	西中学校区コーディネーター	彦根市立城北小学校内
11	有馬 裕次	中央中学校区コーディネーター	彦根市西今町1207 彦根市立中央中学校内
12	柴田 雅美	中央中学校区コーディネーター	彦根市西今町1207 彦根市立中央中学校内
13	小野 忠夫	中央中学校区コーディネーター	彦根市立平田小学校内
14	西村 重晴	中央中学校区コーディネーター	彦根市立金城小学校内
15	木ノ内 江以子	南中学校区コーディネーター	彦根市甘呂町156 彦根市立南中学校内
16	永井 嘉和	南中学校区コーディネーター	彦根市立城南小学校内
17	西崎 文雄	南中学校区コーディネーター	彦根市立城陽小学校内
18	岩野 幹夫	南中学校区コーディネーター	彦根市立亀山小学校内
19	雨森 一夫	彦根中学校区コーディネーター	彦根市西葛籠町553 彦根市立彦根中学校内兼高宮小学校内
20	平塚 寿和子	彦根中学校区コーディネーター	彦根市西葛籠町553 彦根市立彦根中学校内兼高宮小学校内
21	岡野 喜美代	彦根中学校区コーディネーター	彦根市西葛籠町553 彦根市立彦根中学校内兼河瀬小学校内
22	米田 紀代子	彦根中学校区コーディネーター	彦根市西葛籠町553 彦根市立彦根中学校内兼河瀬小学校内
23	森 正治	鳥居本中学校区コーディネーター	彦根市鳥居本町788 彦根市立鳥居本中学校内
24	後藤 絵美子	鳥居本中学校区コーディネーター	彦根市立鳥居本小学校内
25	北川 まき	鳥居本中学校区コーディネーター	彦根市立鳥居本小学校内
26	北川 浩志	稲枝中学校区コーディネーター	彦根市田原町202 彦根市立稲枝中学校内
27	藤田 治夫	稲枝中学校区コーディネーター	彦根市田原町202 彦根市立稲枝中学校内
28	田村 宗久	稲枝中学校区コーディネーター	彦根市立稲枝東小学校内
29	馬場 清行	稲枝中学校区コーディネーター	彦根市立稲枝西小学校内
30	川瀬 保雄	稲枝中学校区コーディネーター	彦根市立稲枝北小学校内
31	小林 朱実	若葉小学校運営協議会会長兼地域コーディネーター	彦根市蓮台寺町180 彦根市立若葉小学校内

(敬称略)

平成30年度

「彦根市地域学校協働活動推進事業」
地域学校協働本部事業・地域未来塾事業
実践事例集

発行 平成31年(2019年)2月

彦根市教育委員会事務局教育部生涯学習課

TEL0749-24-7974 FAX0749-23-9190

E-mail syogai@mx.hikone.ed.jp